

1 学年だより

令和3年10月11日(月)

夢の宅配便

1 年学年主任

水野 喜代治

「前期学年委員が10月の目標を掲示しました。」



前期学年委員が10月の目標をいつものように、下駄箱の上の壁に掲示しました。この目標を掲げて、前期学年委員の仕事は終了します。4月から毎月の学年集会の運営や、遠足の計画など一生懸命に取り組んでくれました。お陰様で、充実した前期の1年生の活動ができたと思います。10月の目標は、学年全員で書くということで、ウルトラ教室で放課後に学年委員がみんなで、目標を書いていた。前期の最後の目標をみんなで書こうという気持ちはとても素敵な考えだなと思いました。

10月の目標は「友情の秋（学習発表会で心を一つに）」です。新型コロナウイルスの影響で、活動する時間も少なく、音楽の時間も十分に練習することが出来ませんでした。9月30日に緊急事態宣言が解除され、ようやく練習を始めることが出来ました。マスクを着けながらの合唱練習はお互いの表情が見えずに、何か寂しさを感じます。各クラス、不完全なところも出てくると思いますが、この状況でできる範囲の努力をして、本番に望みましょう。とにかく、毎日、パート練習を多くして、パートの音を一つにできるように努力していきましょう。

朝練習、昼休み練習、帰りの会の練習はもちろんのこと、授業と授業の合間の時間を活かすなど貪欲な気持ちで練習を進めて行くしかないと思います。私もできる限り男子パートの応援に入って行こうと思います。一緒に楽しく歌いましょう。頑張れ黄色学年！

連載小説 第二編

「キヨさんの小さな小さなダイヤの指輪」

第6話…いざ！箱根登山デパートへ

日曜日に、小田原の箱根登山デパートにウルトラマシンを買いに母と出かけた。母が夏休み前に買った自転車の後ろに乗って、栢山駅まで行く。報徳橋の坂に差しかけると、母がハンドルに付いている変速機のレバーを3にする。ガチャガチャと音がして、ペダルが軽くなる。「喜代治！背中を押して！」と母が大きな明るい声で言った。「わかった。押すよ。よいしょ、よいしょ。」と母の背中をいつものように一生懸命に押した。坂を登りきると「新しい自転車はすごいね！ペダルが軽く、あっという間に坂を登れたよ。」と母が息を切らさないで言った。酒匂川に架かる報徳橋を渡る時、川面に吹いてくる風が心地よく私の頬を撫でていく。報徳橋からは北と南で松田の方と飯泉の方を一望できる。高さ20m、幅250mくらいの報徳橋を渡ると今度は一転、急坂となる。報徳橋からブレーキを掛けながら栢山駅まで一気に下る。

栢山駅の窓口で、大人一枚、子供一枚と母が駅員に伝えてる。窓口のガラスの向こうで駅員が「子供30円、大人60円です。」と料金を請求する。母が90円を窓口で支払う。「毎度ありがとうございます」と歯切れのよい返事をして、手際よく分厚い画用紙でつくられた硬券（切符）を二枚棚から抜いて手渡してくれる。立てた板に水を流すように、スムーズに切符を販売する。改札口に駅員さんがいて、特殊なハサミで切符を挟むとM字の切れ込みができる。これが、改札口を通過した証明となる。この切符をハサミで切る作業があっという間で、切符を出すと同時に、神業の速さで切符を切った。小学生の間では、改札口の駅員さんのこの早業はちょっとしたあこがれでもあった。

小田原駅につくと駅前に箱根登山デパートがそびえ立っていた。箱根登山デパートは、洋服からオモチャまでなんでも売っていた。欲しい物がそこでは手に入った。

箱根登山デパートで買い物をして、ファミリー大食堂で食事をして、最後には屋上の遊園地で遊んで帰った。夢のようなデパートであった。エレベーターのドアが開いて、中に入ると、赤い上下の服を来た綺麗なお姉さんが「何階に御用でしょうか？」と優しい声で尋ねてきた。少し緊張して「おもちゃ売り場お願いします。」と言うと「承知いたしました。」とエレベーターを操作した。お姉さんの白い手袋がとても印象的で素敵だった。「5階、おもちゃ売り場、時計、貴金属、売り場でございます。本日は箱根登山デパートをご利用いただき誠に有りがとうございました。」とゆっくり白い帽子をかぶったエレベーターガールが頭を下げた。いよいよウルトラマシンを買いに行く。 つづく

駅前にあった箱根登山デパート

